

あ れ が わ
阿連川水系河川整備基本方針

平成 1 6 年 1 0 月

長 崎 県

阿連川水系河川整備基本方針

目 次

1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針	1
（1）阿連川流域の概要	1
（2）河川の総合的な保全と利用に関する基本方針	3
1）洪水、高潮等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項	3
2）河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項 並びに河川環境の整備と保全に関する事項	4
3）河川の維持管理に関する事項	4
2. 河川の整備の基本となるべき事項	4
（1）基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に 関する事項	4
（2）主要な地点における計画高水流量に関する事項	5
（3）主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に 関する事項	5
（4）主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な 流量に関する事項	6

< 参考図 >

阿連川水系流域概要図

1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

(1) 阿連川流域の概要

阿連川は対馬島南部の対馬市西部に位置し、その源を対馬市巖原町北部にある標高499mの黒土山に発し、ほぼ北西に向かって山間部を貫流した後、平地部にはいり、田園地帯を流下後東シナ海に注ぐ、幹線流路延長約4.5km、流域面積約10.5km²の二級河川です。

流域の気候は日本海型気候に属し、秋から初春にかけては大陸からの冷たい季節風のため冷え込むことが多く、年平均気温は約16℃（巖原測候所）です。年降水量は約2,200mm（巖原測候所）で、梅雨や台風の影響を受けるため、6月から8月にかけて雨量が多くなっています。

阿連川流域の地形は、標高400m前後の峻険な深い山で囲まれた山地部と、比較的緩やかな斜面地帯から河川沿いの狭い平野で構成されています。

流域内の地質は、第三紀層の対州層群です。岩層は主に泥岩及び砂岩・泥岩の互層からなり、一部にこれを貫いた火成岩類がみられ、下流域の緩傾斜地では沖積層がみられます。

流域内の土地利用は、その大部分が山地によって占められており、下流部の河川沿いの平地部は宅地及び水田・畑等の耕作地として利用されています。河口付近には、阿連集落が形成されています。

流域の人口は、約380人（平成12年国勢調査）であり、阿連集落に集中しています。平成16年3月には、対馬島の6町が合併を行ない新たに対馬市が誕生しています。市になる前の旧巖原町の人口では、昭和50年代に入り減少傾向にあり過疎化と高齢化が徐々に進みつつあります。

流域内は産業等の集積に乏しく農業や漁業等の第一次産業が基幹産業となっています。

阿連川の治水・利水・自然環境及び河川利用状況の概要は、以下のとおりです。

治水の概要

阿連川は、河幅が狭く流下能力が低いため過去幾度となく洪水氾濫を起こしており、昭和47年8月の停滞前線による集中豪雨、昭和60年6月の梅雨前線豪雨等では家屋の浸水や田畑の冠水などの甚大な被害を受けています。しかし、平成10年8月の停滞前線による集中豪雨による洪水では、被害を被ったものの河道改修が一部完成していたため、被害が軽減されています。その後、河道改修を実施していますが、未だ流下能力の低い箇所があるため、今後とも治水対策を継続していく必要があります。

利水の概要

阿連川の河川水は、周辺の水田約2haに農業用水として利用されていますが、農業用水取水に大きな支障をきたすような渇水被害は発生していません。

自然環境及び河川利用状況

阿連川は、感潮区間や堰の湛水区間を除き、普段から河川の水量が少ないという特徴をもっています。

阿連川の流域は、その河道状況から、源流から二級河川上流端(右支川合流点)までを上流域、そこから河口までの下流域の2流域に区分することができます。また、下流域は、感潮区間を区分することができます。

上流域では、両岸が山付で山林が迫る溪流環境の様相を呈しています。このような環境を受けて、水中ではウグイ・タカハヤなどが生息し、水際には、アマガエルや固有種であるツシマアマガエルが生息しています。

下流域の感潮区間を除く区間では、河岸はほとんどがコンクリートブロック積護岸となっているものの、一部には山付部の自然河岸が残っており、スダジイ・ホソバカナワラビ群集、シイ・カシ萌芽林等の河畔林となっています。この河畔林は、アオサギ・カケス・ヒヨドリなどの餌場、休息場となっているばかりか、枝葉から水面に落下した昆虫類や葉は、魚類や水生昆虫類の餌となっています。下流域の感潮区間を除く区間は、河川水が伏没するため、堰の湛水域等を除き普段は流水を見ることはできませんが、堰の湛水域や河道内の淵部では、アユ・ウグイ・タカハヤやクロヨシノボリといった魚類や、モクズガニ・ヌマエビなどの甲殻類を見ることができます。また、雷命神社周辺では、ツシマテン(準絶滅危惧：長崎県レッドデータブック)が確認されています。

下流域の感潮区間では、河岸は緩傾斜護岸（2割の法勾配）となっており、イソシギの採餌や休憩場となっています。河道内では、チチブ・ボラなどがみられ、砂や泥の中にはクロベンケイガニや石の上にイシマキガイがみられます。

河川利用としては、下流域の河川沿いの道路が周辺住民の生活道路として利用されています。また、水辺に下りることが出来る箇所では農機具などの洗い場となっているほか、無形民俗文化財（市指定）に指定されている「オヒデリサマ」という伝統行事が行われています。また、雷命神社前の淵は、夏場になるとプール代わりに利用されています。

阿連川の水質に関しては、公共用水域の類型指定は受けていませんが、平成13年に久奈橋上流地点において計6回の水質調査を実施しており、BODの平均値は0.3mg/ℓ以下であり良好な水質と言えます。

（2）河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

長崎県では、長期総合計画の中で「地域を支え合う安全・安心な社会づくり」、「自然環境と人々が共生する社会づくり」を政策に掲げ、安全で快適な生活環境づくりをめざしています。

阿連川の整備においても、これらの基本理念に基づき、関連地域の社会、経済の発展に係わる諸計画（対馬市総合計画等）との調整を図りながら、源流から河口まで一貫した計画のもとに、河川の総合的な保全・利用を図ります。

またその際、水文や水質など新たな情報を入手した場合は、地域へ情報を提供するとともに、河川に対する要望の集約、河川の整備・保全に係る取り組みの促進・河川の維持に係る取り組みの支援を行い、地域住民と連携した川づくりを行います。

1）洪水、高潮等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項

阿連川においては、想定氾濫区域内の状況、県内バランス等を考慮し、計画規模の降雨により発生する規模の洪水を安全に流下させることができるよう整備を行います。

また、整備途上における施設能力以上の洪水や計画規模を超過する洪水等に対しては、洪水による被害を最小限に抑えるために、関係機関と連携して警戒避難及び情報連絡体制の整備等のソフト対策を総合的に実施します。さらに、災害に強い地域づくりのため、土地利用計画との調整を行うなど、流域と一体となった取り組みを推進します。

2)河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項並びに河川環境の整備と保全に関する事項

河川水の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関しては、地域住民や対馬市等の関係機関との緊密な連携のもとに、合理的な水利用の促進等適正な水利用を図ることにより、現状の水環境の保全に努めます。

また、河川環境の整備と保全に関しては、アユやウグイなどの生息の場となっている河道内の瀬や淵の保全やアオサギ・カケスなどの餌場、休息場となっている河畔林の保全に努めるとともに、地域住民の貴重な潤いや交流の場としての利用等を踏まえた、良好な河川空間整備を行なっていきます。

3) 河川の維持管理に関する事項

河川の維持管理に関しては、災害の発生の防止、河川の適正な利用、流水の正常な機能の維持及び河川環境の整備と保全の観点から適切に行います。

2. 河川の整備の基本となるべき事項

(1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項

基本高水のピーク流量は、基準地点^{へいわばし}平和橋において175m³/sと設定し、これを河道に配分します。

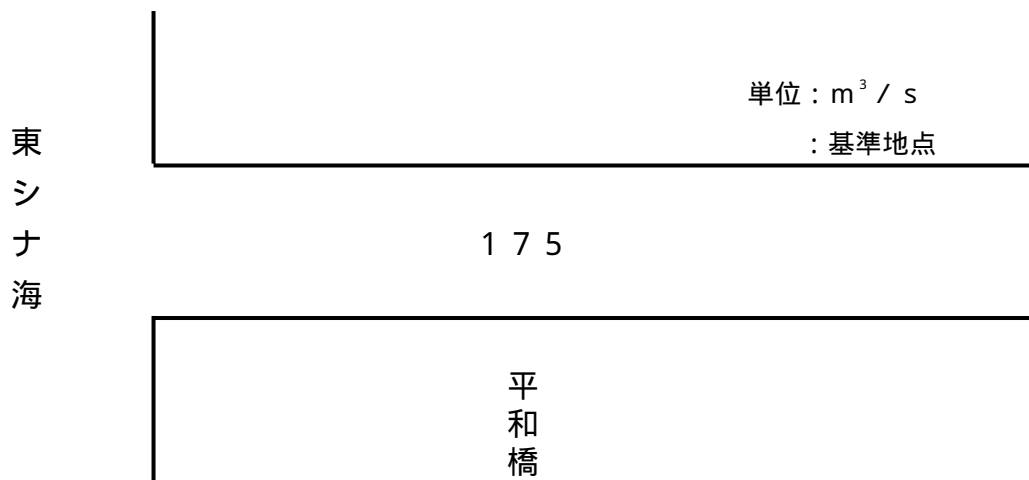
基本高水のピーク流量等一覧表

(単位 : m³/s)

河川名	基準地点	基本高水のピーク流量	洪水調節施設による調節流量	河道への配分流量
阿連川	^{へいわばし} 平和橋	175	-	175

(2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項

阿連川における計画高水流量は、基準地点平和橋において $175 \text{ m}^3/\text{s}$ とします。



阿連川計画流量配分図

(3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に関する事項

本水系の主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る概ねの川幅は次表に示すとおりとします。

主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る概ねの川幅一覧表

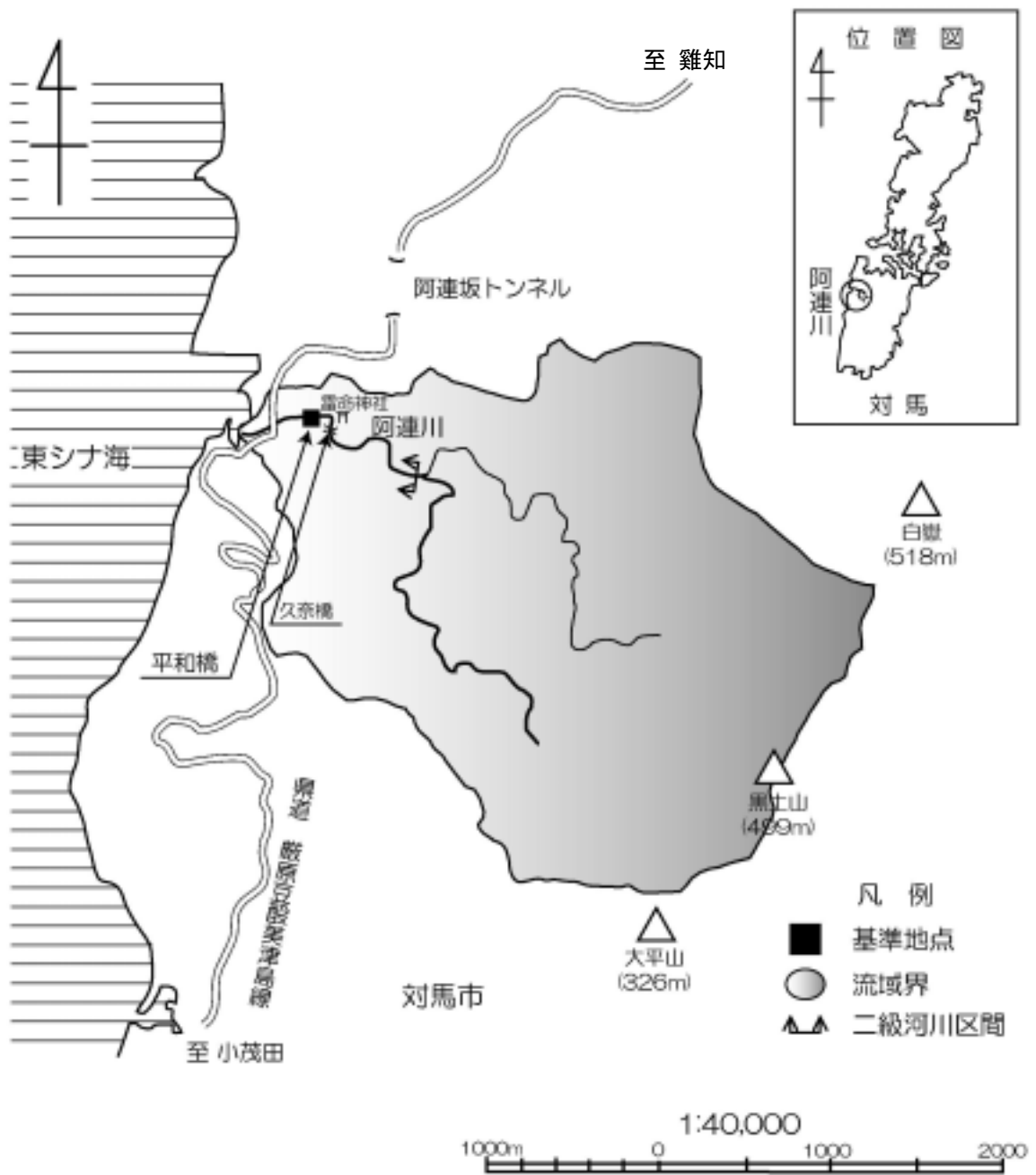
河川名	地点名	河口からの距離 (km)	計画高水位 (I.P.m)	川 幅 (m)	摘 要
阿連川	平和橋	0.6	+ 2.81	27	基準地点

(注) I.P : 巖原港平均海面

(4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関する事項

阿連川の河川水は、約 2 h a の水田に対する農業用水として利用されています。

流水の正常な機能を維持するために必要な流量に関しては、今後、水利用の実態把握等に関する調査検討を必要に応じ行います。



阿連川水系流域概要図